

令和5年度 自己点検・評価書

令和6年7月

佐賀大学

肥前セラミック研究センター

I 現況及び特徴（※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。）

佐賀大学はCOC(Center of Community)として地域貢献を推進する大学を目指し、次の100年を担う窯業人材育成のため、平成25年に佐賀県と協力協定を結んだ。その後、平成28年4月に芸術地域デザイン学部を設置し、佐賀県立有田窯業大学校を統合し、佐賀大学有田キャンパスを発足すると同時に、肥前窯業圏の研究を中心とした地域貢献を目的とした肥前セラミック研究センターを設置した。

このような背景と現在の地域状況を考慮し、佐賀大学の基本的な役割は、肥前窯業の持続性を支える研究と教育であるということを再認識し、本学で平成28年12月に策定された中期計画カルテとアクションプランに基づき、肥前セラミック研究センターの設置に伴う機能強化経費等プロジェクト実行経費事業「やきものイノベーションによる地域共創プロジェクト」の推進強化を行った。

令和5年、第4期に入り各部門が目標に向け動き出したが、各部門の活動計画に加え、3部門が協働して取り組む体制とそれによる目標を示していないという反省から、第4期1年を過ぎていたが、令和6年度より、センター長をプロダクト・アート研究部門から選出し、「次世代に向けた有田焼の商品開発」の具体的な活動を進めることで、3部門全体での目標とし事業推進を図る。

肥前セラミック研究センターは、プロダクトデザイン・アート研究部門、セラミックサイエンス研究部門、マネジメント研究部門の3つの研究部門から構成され、平成5年度には、それぞれ、4名、9名、4名の教職員が在籍した。そのうち、2名((特任教授(非常勤)、准教授)が専任教員、専任の非常勤研究員1名、14名が併任教員である。

令和6年4月からの体制は、プロダクトデザイン・アート研究部門4名、セラミックサイエンス研究部門8名、マネジメント研究部門名の15名の教職員が在籍する。そのうち、1名(特任教授(非常勤))が専任教員、14名が併任教員であり、さらに、3名の客員研究員で構成している。

【根拠資料1】 肥前セラミック研究センター活動報告書 令和5年度版(9月発行予定)

II 目的（※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。）

肥前セラミック研究センターは、有田焼、伊万里焼、唐津焼、波佐見焼などの肥前陶磁の伝統的技術・工芸とファインセラミックスの先進技術要素、市場調査等の陶磁器産業分析を組み合わせた、素材開発、やきもの表現活動、プロダクトデザイン研究開発、陶磁器やファインセラミックスの原料や製作技術の解析・応用を行い、人材育成及び地域の活性化に貢献することを目的とする。また、学内外における異分野教員が横断的に協力し、更に佐賀県窯業技術センター、佐賀県立九州陶磁文化館、地元陶磁器関連企業、海外の陶磁器関連大学等との連携により「やきものイノベーション」の創出を図り、地域社会の持続的発展に資することを目的とする。

【根拠資料1】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和5年度版 (9月発行予定)

【根拠資料2】 佐賀大学肥前セラミック研究センター規則

Ⅲ 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）（※必須記述です）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

(1) 学部生への「材料学」の提供

特任教授が芸術を学ぶ学部生に対し「材料学」講義を実施。物質の科学的基礎や材料の基本的特性等を全 15 回指導。

(2) 「肥前セラミック学」開講

令和 4 年度から、本学学部生を対象とした全学教育機構の全学教育科目（基本教養科目（自然科学と技術の分野））「肥前セラミック学」を開講している。本庄キャンパスでの陶磁器に関する講義やセラミックスに関する化学実験とともに、有田キャンパスでの陶磁器の制作体験や、有田町のフィールドワークも含んだものとなっており、3 研究部門の特徴を統合したセンターならではの講義となっている。

(3) 「有田ウィンドウディスプレイ甲子園」協力

有田工業高校など近隣 3 県 6 高校から 44 名とオンラインで 60 名が参加、有田商業地域の街並みでショーウィンドウを陶磁器で演出する有田観光協会主催のイベントに、講評や審査、有田キャンパスの会場提供などで協力し、デザイン力向上と有田焼の周知に貢献した。

(4) 研究成果報告会「セラミックス廃棄物の検知と有効利用」

オンライン開催(2023.5.21)、33 名参加

(5) 招待講演会「地域企業と地域ブランド」

佐賀大学本庄キャンパス経済学部 4 号館 1 階、第 4 講義室、37 名参加、(2023.10.21)

(6) 陶交会×佐賀大学 PROJECT

テーマ『material』佐賀県立九州陶磁文化館、(2024. 3.5～3.10)

(7) 地域みらい創生プロジェクト「やきもの立体 QR コード」成果報告会

本庄キャンパス産学交流プラザ 3 階会議室1、(2023. 4.7)

(8) イスラエル・ベツアルエル美術デザインアカデミーとの交流プロジェクト

「Story Box」合同交流展開催、有田キャンパスエントランスギャラリー、(2023. 4.4～5.31)

(9) 「Story Box」プロジェクト クロージング発表会

有田キャンパスエントランスギャラリー、(2023. 6.28)、24 名参加

(10) 韓国国民大学校合同展覧会

韓国ソウル市ギャラリー日常、(2023. 12.13～12.17)21 名参加

(11) 有田町(秋の陶器市時の有田市街地)見学への引率

本学経済学部学生 23 名を有田陶器市、有田キャンパスへ引率し、陶磁器産業と市場を見学した。

(12) 佐賀県立有田工業高校キャリア教育支援講義

「ファインセラミックスについて」、有田工業高校、(2023.7.5)参加者 37 名

【根拠資料】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和5年度版 (9月発行予定)

【自己評価】

芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、理工学研究科、全学教育機構等との連携においてセンターの研究に関連する学生指導を通して教育に貢献しており、評価できる。今後も学部・研究科との連携を深めて教育に貢献する。前年度に引き続き、本学学生以外の地域住民や高校生、中学生に対して、イベントの審査や講演会、展示会等を通して、センターの研究領域に基づく教育や地域貢献の観点からの教育支援を実施できたことも評価できる。

○優れた点・特色ある点 (継続的取組も含む)

- ・研究成果の教育（講義）への反映、「肥前セラミック学」の開講など、異分野融合型のセンターの特徴を生かした大学教育への貢献ができた。
- ・本学学生以外の地域住民や高校生中学生に対して、イベントやジョイントセミナー等を通して、センターの研究領域に基づく教育や地域貢献の観点からの教育支援を行った。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
・「肥前セラミック学」の異分野のオムニバス授業の一貫性。	異分野融合型のセンターの特徴を生かした大学教育への貢献が必要とされていたが、焼き物を通した異分野融合型の研究成果の講義への反映、新科目の開設など、改善できた。	☐ 検討中 ☐ 対応中 ☒ 対応済 ☐ その他 ()

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(1) 研究成果の教育への反映

本センターの研究に関連して教育を行い研究テーマとして捉えた学生は、プロダクトデザイン・アート研究部門4名、セラミックサイエンス研究部門は、修士課程8名学部6名、マネジメント研究部門は修士課程1名学部1名の計20名。

(2) イスラエル・ベツアルエル美術デザインアカデミーとの交流プロジェクト

「Story Box」合同交流展開催により、両大学から30を超える作品が寄せられ、互いにその特徴を共有し、制作に反映させた。(2023.4.4～5.31)

(3) 韓国国民大学校合同展覧会

焼成無収縮磁土等の本研究センターの技術を使い成形した。

(4) 指導学生他の作品数 134 件

これまで蓄積した様々な素材と技法を学生の要求に対応し提供できているため、数的な作品の成果が上がっている。

(5) 「地域創生フィールドワーク：有田地域」（3 年次コア科目）

『全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀有田記念大会』に向け、柿右衛門窯・今右衛門窯を題材に若い世代に向けた伝統工芸の普及振興のための映像を作成。SNS 等で発表している。

○優れた点・特色ある点（継続的取組による成果も含む）

- ・卒業研究、修士論文等で本センターの研究に関連して教育を行い、研究テーマに据えた学生を 3 部門でそれぞれ輩出している。
- ・海外の学生との交流と制作活動の中で、本センターの研究に関する内容を使い成果を上げた学生が多かった。
- ・講演会や成果報告会を通じて研究を学生の教育に反映できた。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
これまでそれぞれの部門がそれぞれの分野で、或いは協働し陶磁器の文化的側面を講演会や成果報告会で学生の教育に反映してきたが、3 部門が協働した成果を教育への還元までつなげるべきである。	「次世代に向けた有田焼の商品開発」の課題を中心に、3 部門が 1 つの課題にそれぞれの分野で研究が進んでいる。課題の中間報告、研究の過程を通して教育への還元を図る。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

IV 研究に関する状況と自己評価

(※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。)

分析項目 I 研究活動の状況

- (1) 焼成無収縮磁土での表現の可能性の展開、学生・研究生等のプロトタイプ制作実・イリノイ大学 Brian Anderson 氏との共同研究試行
- (2) 佐賀県陶磁器工業協同組合受託研究「Hovy Cup」プロジェクト(継続)
- (3) 「有田キャンパスプロジェクト」では陶磁器で龍を制作し街を練り歩く「龍を担ぐ」プロジェクトと、小学生に焼き物制作体験させる「いきものやきものきょきんばこ」プロジェクトを通して、美術活動による有田焼活性プロジェクトに取り組んだ。
- (4) 超低収縮陶磁器原料の開発、有機無機ハイブリッド陶磁器の開発、新しい陶磁器成形技術の開発、焼成変形しにくい磁器素地の開発などに関する研究を行った。
- (5) ラマン散乱とルミネッセンスを用いた古陶磁の産地同定、武雄古陶磁の白化粧と市内陶石に関する科学的検証、一軸圧縮試験の水平方向供試体を作製する方法の開発、廃棄建材中のアスベストの簡易検出法の開発などに関する研究を行った。
- (6) ペルオキシ基を含む遷移金属化合物水溶液の合成と特性評価、環境保全型コンクリートであるジオポリマーの開発、セラミックス吸着層を導入したチューブによる細胞小胞体の分離、IH に対応する磁器製食器の開発、陶磁器廃材・廃素焼き片・廃石膏型枠の有効利用に関する研究などを行った。

・各教員の研究課題及び共同研究相手

次ページに、研究課題等の一覧表を示す。

プロダクトデザイン・アート研究部門で 4 テーマ、セラミックサイエンス研究部門で 20 テーマ、マネジメント研究部門で 8 テーマの研究が実施された。

佐賀県窯業技術センター、有田町歴史民俗資料館、泉山磁石場組合、地元企業等の肥前地区の窯業関連機関とともに、景德鎮陶磁大学、原子力研究開発機構、民間企業等との協働での研究活動を行った。

研究テーマの多くは肥前地区の窯業関係機関とともに行われており、地域に密着した研究が実施されていることがわかる。

表 各教員の研究テーマ一覧表

部門	教 員	研究課題	連携相手
プロダクトデザイン・アート 研究部門	田中	焼成時無収縮磁器土による成形法開発と造形表現への応用	佐賀県窯業技術センター
	三木	3D デジタルデザインツールを用いた陶磁器製品開発	佐賀県、有田町、佐賀県陶磁器工業協同組合、企業 1 社
	湯之原	異素材を利用した陶磁器表現の研究	佐賀県窯業技術センター
	田中・湯之原・甲斐・三木	次世代に向けた有田焼の商品開発	佐賀県窯業技術センター
セラミックスサイエンス研究部門	一ノ瀬・矢田・蒲地	完全無収縮陶磁器の開発と応用	佐賀県窯業技術センター
	一ノ瀬・矢田	自硬性鋳込み成形技術の開発と応用	企業 1 社
	一ノ瀬・矢田	ペルオキソ金属錯体及びそれを前駆体としたセラミックスの合成と応用研究	企業 2 社
	一ノ瀬・矢田	武雄市を中心とする古陶磁陶片及び原料の科学的分析と考古学的考察	武雄市・企業 1 社（受託研究）
	一ノ瀬・矢田・川喜田・蒲地	産業廃棄物の陶磁器・セラミックス材料への利用研究	企業 1 社・佐賀県窯業技術センター（共同研究）、企業 2 社・秘密保持契約
	海野・一ノ瀬・矢田	有田町を中心とする古陶磁陶片及び原料の理化学的分析と人文科学的考察	有田町歴史民俗資料館（共同研究）
	矢田	廃棄建材中のアスベストの検知に関する研究	（独）環境再生保全機構（受託研究）
	近藤	泉山粘土と天草粘土の物理・化学性および可塑性の比較検討	
	海野	近赤外ラマン散乱およびルミネッセンスを用いた古陶磁器の産地同定法に関する研究	佐賀県窯業技術センター 有田町歴史民俗資料館
	海野	近赤外ラマン散乱およびルミネッセンスを用いた非破壊分析に関する研究	瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センター
	HAO	強化磁器の強化メカニズムの解明と新規強度設計	東京工科大学、佐賀県窯業技術センター
	HAO	新機能セラミックス材料の創製	佐賀県窯業技術センター、景德镇陶瓷大学
	HAO	有田焼の耐衝撃特性向上に関する研究	東京工科大学、佐賀県窯業技術センター
	川喜田	セラミックス層導入円管チューブによる生体分子・粒子の分離	
	川喜田	泉山陶石の有効利用に関する研究	佐賀県窯業技術センター、泉山磁石場組合、企業 1 社
	根上	陶磁器廃材・廃素焼き片・廃石膏型枠の有効利用に関する研究	企業 1 社

部門	教 員	研究課題	連携相手
セラミックスサイエンス研究部門	磯野	金属/陶磁器複合体の開発と応用	
	三沢	IH（誘導加熱）に対応する有田磁器製の病院・介護施設給食用食器の開発	企業 1 社
	三沢	FEM による SPS 温度分布評価	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
	三沢	大気圧プラズマ成膜法による樹脂成形品への機能性付与技術の開発	佐賀県工業技術センター
マネジメント研究部門	有馬	有田町の空き家の実態とその利活用に関する研究	企業 1 社、地域有識者
	山本	肥前窯業に関する企業者史研究	山田雄久（近畿大学）
	洪	ヤキモノの消費者意識に関する調査研究	
	本田	観光消費の向上を目的とした有田焼手ぬぐいの開発	企業 2 社
	本田	岳の棚田における交流人口増加を目的としたイベント開催のあり方の実践的研究	岳の棚田保全協議会
	本田	有田焼職人のドキュメンタリー映像制作を通じた人材育成の実践的研究	有田町まちづくり課
	本田	漂着軽石を用いた釉薬の磁器製品への応用	
	本田	有田焼をモチーフとした服飾への展開	企業 1 社
客員研究員	蒲地	強化磁器、高精度磁器等の新規機能性陶磁器の開発	
	浜野	肥前窯業園における事業化デザインに関する研究	
	山田	肥前陶磁器業の経営発展と企業者活動に関する歴史研究	

【根拠資料】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和 5 年度版（9 月発行予定）

○優れた点・特色ある点（継続的取組も含む）

- ・陶磁器の素材開発について、無収縮、低収縮、強度設計、産地陶土の有効利用等、様々な研究開発し成果が上がっている。
- ・ラマン分光法によるセラミックスの分析技術開発と古陶磁の分析への応用、シンクロトロン光を用いた産地推定法の研究などが、陶磁器の歴史的研究に大きな進展をもたらし研究機関より高い注目を頂いている。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
更に3部門が連携し良く機能する形の研究も進めていく。	「次世代に向けた有田焼の商品開発」の課題を中心に、プロダクトデザイン・アート研究部門とマネジメント研究部門で、消費者調査等で協働を行っている。更にセラミックサイエンス研究部門の素材又は技術的裏付け等を加え、研究を進める。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

- ・学術発表 45 件（学会発表や学術講演等）
- ・学術論文等掲載 13 件（著書、論文、解説等）
- ・作品発表・展示会数 17 件
- ・共同研究・受託研究・秘密保持契約等 8 件
- ・地域連携協定 1 件（H29～九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、芸術地域デザイン学部）
- ・国際研究交流協定 1 件（H30～韓国窯業技術院 Icheon 分院）

主な研究成果

- (1) イスラエル ベツアルエルデザイン美術アカデミーとの教育研究交流『Story Box』の合同成果展を有田キャンパスエントランスギャラリーとベツアルエルで同時開催
- (2) ・イスラエル ベツアルエルデザイン美術アカデミーとの教育研究交流『Story Box』のオンラインクロージング発表会開催
- (3) ・有田町/佐賀県の Creative Residency Arita 事業協力、クリエイターのレクチャーを有田キャンパスで開催
- (4) 「エントランスギャラリーでのプロトタイプ等展示発表」では有田キャンパスエント

ランスギャラリーで、授業での成果や研究成果展、卒業制作展等を開催。

- (5) 「有田キャンパスストリートギャラリー運営」では有田キャンパス前のガラスケースに学生・教員の作品入れ替えを行い、有田町の景観演出に寄与。
- (6) 「陶交会×佐大 PROJECT」は有田陶交会と佐賀大学学生が協働し、制作プロセスの情報交換を行い、研究制作を行う。陶交会と共に3月に佐賀県立九州陶磁文化館で『material』展として研究制作成果を展示発表
- (7) 有田焼をモチーフにした手ぬぐいの商品開発
本研究では新規顧客の獲得や観光消費額の向上を目指してやきもの以外の商材を佐賀県立有田工業高校学生とともに有田焼をモチーフにした手ぬぐいを開発した。
- (8) 肥前陶磁業史に関する研究
肥前磁器の集散地であった佐賀県伊万里の出身で、1899（明治32）年に森永製菓を設立する森永太一郎（1865 - 1937）に注目し、（1）江戸時代にさかのぼって、磁器の生産をめぐる佐賀藩と加賀藩との関係、（2）明治期の石川県寺井（現、能美市）からの綿野吉二、綿谷平兵衛、織田甚三、綿野安太郎らの横浜での支店開設と、彼らの伊万里商人および伊万里銀行横浜支店との関係関連、そして、（3）納富介次郎の金沢工業学校初代校長着任をはじめとする九谷焼への関与等、肥前磁器と九谷焼との関係を中心に歴史的考察を行った。
- (9) 若者の有田焼に対する印象評価
消費者の嗜好性の変化などの様々な要因によって有田焼の需要が減少する中で、科学的アプローチによって消費者の嗜好を解明し、有田焼の消費拡大へ向けた取り組みが必要であり、本研究では、消費者好把握の第一歩として、若者にターゲットを絞り、20代30代男女の有田焼に対する印象評価実験の結果を統計的分析をもとに考察した。

○優れた点・特色ある点（継続的取組による成果も含む）

本センターが開発に関わった素材の完全無収縮陶土を使い、プロダクトデザイン・アート研究部門が研究生と共に製作した『やきもの立体 QR コード』の有田駅設置など、素材研究の成果が表れた。また、陶磁器生産地域における地域の諸問題に対する文化的アプローチをマネジメントの領域から行って地域の活性に貢献できた。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
研究成果の検証と記録を、学術論文や学会発表等で発表していく。	成果物の発表等を積極的に打ち出していくと共に、論文等にまとめる。また、シンポジウムや研究発表会により成果を公表していく。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

V 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

(※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。)

国際交流

- (1) イスラエル ベツアルエル美術デザインアカデミー 交流プロジェクト「Story Box」 合同交流展 開催 (2023. 4. 4～5. 31)
- (2) KICET (韓国窯業技術院) 佐賀大学訪問 (2023. 6. 14、6. 15)
- (3) 「Story Box」 プロジェクト クロージング発表会 (2023. 6. 28)
- (4) 済州特別自治道文化芸術振興院 済州国際陶芸フェスタ出展 (2023. 9. 4～9. 10)
- (5) 韓国窯業技術院利川分院 (KICET) 訪問および共同研究交流 (2023. 10. 23～10. 28)
- (6) 景德鎮陶磁大学訪問および共同研究交流 (2023. 11. 9～11. 11)
- (7) 韓国国民大学校研究発表、合同展示会 招待講演「陶磁器の発想法」 (2023. 12. 13)
- (8) 中国広東省松山湖材料実験室訪問・共同研究交流 (2023. 12. 27～28)
- (9) 景德鎮陶磁学院、韓国伝統文化研究所有田キャンパス訪問 (2024. 1. 25)

社会貢献

- (1) 地域みらい創生プロジェクト 「やきもの立体 QR コード」 成果報告会
- (2) 有田ニューセラミック研究会 (企画委員会、運営打ち合わせ、総会等)
- (3) 第 30 回全国重要無形文化財保持団体協議会 佐賀・有田大会参加、取材 (協力)
- (4) 第 30 回全国重要無形文化財保持団体協議会、 記念大会特別トークセッション (パネリスト)
- (5) 蓋をあける展
- (6) 「アリタ・マシュマロ・クリスマス」 (オリジナルマグカップデザイン)
- (7) 「彩色展」 出展
- (8) 武雄市連携協定活動最終報告会での研究成果発表
「武雄古陶磁の白化粧と市内陶石に関する科学的検証」
- (9) 陶交会×佐賀大学 PROJECT 『material』
- (10) 『UNTIL THIS LIGHTS UP』 このあかりが灯るまで (映像展)
- (11) 『UNTIL THIS LIGHTS UP』 このあかりが灯るまで (映像展) vol. 2

(12) 有田キャンパス ストリートギャラリー作品展示入替

○優れた点・特色ある点（継続的取組も含む）

陶磁器の研究交流ネットワークとしての韓国、中国、日本の研究者交流が盛んに行われた。また、ドイツ、オランダにおいても交流は積極的に継続している。また、社会貢献においては、九州陶磁文化館、窯業技術センターとの協力関係や、地域焼き物産業との連携もうまく機能している。焼き物関係機関、窯元等への就職も安定して供給している。

○改善すべき点

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
イスラエル ベツアルエル美術デザインアカデミーとの交流は、双方向の教員間交流、合同授業等4年目で交流協定を見据えた関係となっていたが、国際情勢のため、中断した。当面再開は考えられず、新たな道筋を考えなければならない。	これまで交流を積み上げてきた、ドイツ・ブルグギビヒェンシュタイン芸術デザイン大学、オランダ・アイントホーヘンデザインアカデミー、韓国窯業技術院利川分院（KICET）、韓国・国民大学校、中国・景德鎮陶磁大学との交流の充実の検討と、更に新しい交流を始めるべきなのか検討中。	■ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

[参考1：自己点検評価の観点（機関別選択評価項目B及びCより抜粋）]

B 地域貢献活動の状況

大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

- ・大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。
- ・計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
- ・活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
- ・改善のための取組が行われているか。

C 教育の国際化の状況

大学の目的に照らして、教育の国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

- ・大学の教育の国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

- ・計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
- ・活動の実績及び学生の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
- ・改善のための取組が行われているか

VI－I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価 (※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。)

組織運営

(1) 肥前セラミック研究センター運営委員会

出席者：肥前セラミック研究センター運営委員会委員

開催日：第1回 2023.7.5(オンライン会議) 第2回 2023.10.19(オンライン会議)

第3回 2024.1.19(メール会議)

(2) 企画会議

出席者：矢田、有馬、三木、本田、一ノ瀬、三島 URA

開催日：2023.4.20

内 容：センター活動計画、予算執行計画、センター課題の共有等

(3) 部門長会議

開催日：第1回 2024.2.20 第2回 2024.3.21(オンライン)

(4) センター全体会議

開催日：第1回 2023.11.2 第2回 2024.3.26(オンライン)

(5) 四者会議

出席団体：佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター

開催日：2024.3.26 場所：有田キャンパス

(6) 有田キャンパス地域連絡会

出席者：関係自治体、学識経験者、窯業関係団体代表、芸術地域デザイン学部長、肥前セラミック研究センター長、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター

開催日：2024.3.26 場所：有田キャンパス

○優れた点・特色ある点 (継続的取組も含む)

・四者会議（佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター）、有田キャンパス地域連絡会（関係自治体、学識経験者、窯業関係団体代表、芸術地域デザイン学部長、肥前セラミック研究センター長、芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター）の開催により、毎年の本センターの活動について、評価や提案を頂き、活動の検証につなげている

・3部門それぞれ、有効な研究結果が見られたと共に、昨年度までの懸案であった3部門間の連携強化については、焼成無収縮磁土での表現の可能性の展開や学生・研究生等のプロトタイプ制作実践、セラミックサイエンス研究部門開発の「自硬鑄込み成形技術」を応用した作品制作実践研究の展開と JR 有田駅への設置など、3部門の研究が融合した内容は見られた。

○改善すべき点

- ・第4期の活動計画の1年目の令和5年度に、センター長等の組織構成員を変更し、これまでの3部門の研究に加え、3部門が融合した活動と目標設定を行った。そのなかで目標の達成を行うために、各部門の担当する教員との連携を密にする。
- ・FD研修会や全体会議等で部門間の疎通を図っていく。

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
令和5年度までで専任教員3名の内2名（上席研究員・准教授）が退職し、令和6年度からの専任教員は非常勤の特任教授1人となる。専任教員の増員が望まれる。	第4期の活動計画に対して効果のある地域や産業に対しての企画や運営の出来る専任教員を希望し人事を立ち上げを考えている。	☒ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

ⅥーⅡ 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のための方策

さらに3部門の活性と協働を図り、分野ごとの研究推進に加え、次世代に向けた有田焼の商品開発を中心に相互にコミュニケーションを図り、具体的で充実したアウトリーチにつなげる。

○プロダクトデザイン・アート研究部門

「次世代に向けた有田焼の商品開発」「異素材を利用した新たな磁器表現の研究」（科研取得）「有田焼窯元陶交会との協働研究発表」等のアウトリーチを推進する。

○セラミックサイエンス研究部門

「考古学×サイエンス研究」の拡大推進、「乾燥しても焼いても縮まない新しい陶磁器原料の開発」「企業・公共団体との委託・受託研究等契約締結による社会連携

推進。「次世代に向けた有田焼の商品開発」に向けた理化学からのアプローチで付加価値を付ける。

○マネジメント研究部門

「次世代に向けた有田焼の商品開発」に向けた若者の有田焼に対する印象評価研究及び、有田焼に対する意識調査・消費者評価「有田焼に対するアンケート調査」、有田地域調査（窯業産地地域再生モデルの構築）

（※必須記述です。構成設定は部局の判断とします。）

なお、別紙様式【「令和３年度部局の自己点検・評価書」に基づく改善すべき点とその改善状況及び「令和４年度部局の自己点検・評価書」に基づく新たな改善すべき点一覧】は、令和５年９月の質保証統括本部会議等において、協議・検証するため、別途提出を要する。

本ページ以降の認証評価基準に係る自己評価については、別途依頼する内部質保証モニタリングで質の担保を行うため、必ずしも記述する必要はありません。

Ⅶ 教育に関する状況と自己評価

領域 1 教育研究上の基本組織に関する基準

基準 1－1 教育研究上の基本組織が、大学等の目的に照らして適切に構成されていること

○項目ごとの分析

【1-1-1】学部及びその学科並びに研究科及びその専攻の構成（学部、学科以外の基本的組織を設置している場合は、その構成）が、大学及びそれぞれの組織の目的を達成する上で適切なものとなっていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 1－2 教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること

○項目ごとの分析

〔1-2-1〕 大学設置基準等各設置基準に照らして、必要な人数の教員を配置していること
【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔1-2-2〕 教員の年齢及び性別の構成が、著しく偏っていないこと
【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 1－3 教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること
--

○項目ごとの分析

〔1-3-1〕 教員の組織的な役割分担の下で、教育研究に係る責任の所在が明確になっていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[1-3-2] 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[1-3-3] 全学的見地から、学長若しくは副学長の下で教育研究活動について審議し又は実施する組織が機能していること

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

領域2 内部質保証に関する基準

基準2-1 内部質保証に係る体制が明確に規定されていること

○項目ごとの分析

【2-1-1】 大学等の教育研究活動等の質及び学生の学習成果の水準について、継続的に維持、向上を図ることを目的とした全学的な体制（以下、「機関別内部質保証体制」という。）を整備していること

【2-1-2】 それぞれの教育研究上の基本組織が、教育課程について責任をもつように質保証の体制が整備されていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【2-1-3】 施設及び設備、学生支援並びに学生の受入に関して質保証について責任をもつ体制を整備していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他

		()
--	--	-----

基準 2－2 【重点評価項目】内部質保証のための手順が明確に規定されていること

○項目ごとの分析

〔2-2-1〕それぞれの教育課程について、以下の事項を機関別内部質保証体制が確認する手順を有していること

（１）学位授与方針が大学等の目的に則して定められていること

（２）教育課程方針が大学等の目的及び学位授与方針と整合性をもって定められていること

（３）学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準になっていること

〔2-2-2〕教育課程ごとの点検・評価において、領域 6 の各基準に照らした判断を行うことが定められていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-2-3〕施設及び設備、学生支援、学生の受入に関して行う自己点検・評価の方法が明確に定められていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-2-4〕機関別内部質保証体制において、関係者（学生、卒業（修了）生、卒業（修了）生の主な雇用者等）から意見を聴取する仕組みを設けていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[2-2-5] 機関別内部質保証体制において共有、確認された自己点検・評価結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む。）を踏まえた対応措置について検討、立案、提案する手順が定められていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[2-2-6] 機関別内部質保証体制において承認された計画を実施する手順が定められていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[2-2-7] 機関別内部質保証体制において、その決定した計画の進捗を確認するとともに、その進捗状況に応じた必要な対処方法について決定する手順が定められていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
----------	-----------	------

		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()
--	--	--

基準 2－3 内部質保証が有効に機能していること

○項目ごとの分析

〔2-3-1〕 自己点検・評価の結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む）を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果をあげていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-3-2〕 機関別内部質保証体制のなかで、点検に必要な情報を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その取組が効果的に機能していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-3-3〕 機関別内部質保証体制のなかで、学生・卒業生を含む関係者からの意見を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その意見を反映した取組を行っていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[2-3-4] 質保証を行うに相応しい第三者による検証、助言を受け、内部質保証に対する社会的信頼が一層向上している状況にあること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 2－4 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること

[2-4-1] 学部又は研究科その他教育研究上の組織の新設・改廃等の重要な見直しを行うにあたり、機関別内部質保証体制で当該見直しに関する検証を行う仕組みを有していること

基準 2－5 組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること

○項目ごとの分析

[2-5-1] 教員の採用及び昇格等に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する判断の方法等を明確に定め、実際にその方法によって採用、昇格させていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-5-2〕 教員の教育活動、研究活動及びその他の活動に関する評価を継続的に実施していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-5-3〕 評価の結果、把握された事項に対して評価の目的に則した取組を行っていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-5-4〕 授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に実施していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔2-5-5〕 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、それらの者が適切に活用されていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[2-5-6] 教育支援者、教育補助者が教育活動を展開するために必要な職員の担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準

基準3-1 財務運営が大学等の目的に照らして適切であること

基準3-2 管理運営のための体制が明確に規定され、機能していること

基準3-3 管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること

基準3-4 教員と事務職員等との役割分担が適切であり、これらの者の間の連携体制が確保され、能力を向上させる取組が実施されていること

基準3-5 財務及び管理運営に関する内部統制及び監査の体制が機能していること

基準3-6 大学の教育研究活動等に関する情報の公表が適切であること

領域 4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

基準 4－1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

○項目ごとの分析

〔4-1-1〕 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備を法令に基づき整備していること

〔4-1-2〕 法令が定める実習施設等が設置されていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔4-1-3〕 施設・設備における安全性について、配慮していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔4-1-4〕 教育研究活動を展開する上で必要な I C T環境を整備し、それが有効に活用されていること

〔4-1-5〕 大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されていること

〔4-1-6〕 自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 4－2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

○項目ごとの分析

【4-2-1】 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【4-2-2】 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【4-2-3】 留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[4-2-4] 障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[4-2-5] 学生に対する経済面での援助を行っていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 5－1 学生受入方針が明確に定められていること

○項目ごとの分析

〔5-1-1〕学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 5－2 学生の受入が適切に実施されていること

○項目ごとの分析

〔5-2-1〕学生受入方針に沿って、受入方法を採用しており、実施体制により公正に実施していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔5-2-2〕学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証す

るための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 5－3 実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること

○項目ごとの分析

〔5-3-1〕実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

基準6－1 学位授与方針が具体的かつ明確であること

○項目ごとの分析

【6-1-1】学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準6－2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること

○項目ごとの分析

[6-2-1] 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、

①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、

③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

[6-2-2] 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 6－3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること

○項目ごとの分析

[6-3-1] 教育課程の編成が、体系性を有していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【6-3-2】 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【6-3-3】 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【6-3-4】 大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【6-3-5】 専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 6－4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
--

○項目ごとの分析

【6-4-1】 1年間の授業を行う期間が原則として 35 週にわたるものとなっていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【6-4-2】 各科目の授業期間が 10 週又は 15 週にわたるものとなっていること。なお、10 週又は 15 週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10 週又は 15 週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

【6-4-3】 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-4-4〕教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-4-5〕専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること ※学校教育学研究科のみ

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-4-6〕大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること ※該当する研究科のみ

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-4-8〕教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-4-9〕夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っている
こと ※該当する研究科のみ

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 6－5 学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること

○項目ごとの分析

〔6-5-1〕学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行
われていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-5-2〕学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われている

こと

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-5-3〕 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-5-4〕 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習
支援を行う体制を整えていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 6－6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

○項目ごとの分析

〔6-6-1〕 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-6-2〕 成績評価基準を学生に周知していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-6-3〕 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-6-4〕 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

基準 6－7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること

○項目ごとの分析

〔6-7-1〕大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-7-2〕大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文評価基準」という。）を組織として策定していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-7-3〕策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-7-4〕卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

基準6－8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

○項目ごとの分析

〔6-8-1〕標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-8-2〕就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-8-3〕卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

〔6-8-4〕卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること

【分析にかかる状況、特色】

【根拠資料】

○優れた点

--

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
		☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()